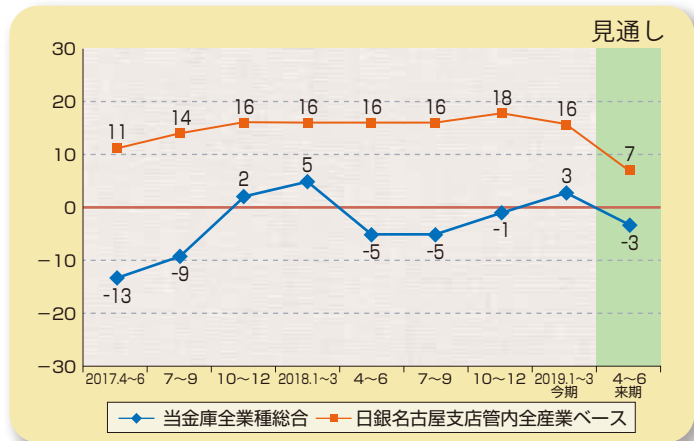


実績および見通し

今期の全業種総合業況判断DIは、前期より4ポイント上昇し3となりました。好不況の判断基準となるゼロを上回ったのは、2018年1~3月調査以来1年振りです。自動車や電気機械等の生産は安定推移し、堅調な住宅需要を背景に建設業・不動産業においても業況は好調推移しています。一方で、年末需要の反動からサービス業の景況感は悪化しています。

来期の予想業況判断DIは▲3となりました。建設業や卸・小売業などで人手不足感の高まりが深刻となっており、業況悪化の要因と見込まれています。

全業種総合 業況判断DI推移



注目ポイント(フェニころからの一言)



今年も飲食料品の値上げが目立つわね。



この4月・5月にも様々な飲食料品の値上げが発表されているね。その原因には原材料価格の上昇のほか、今多くの企業が悩まされている人手不足も大きな要因としてあげられるよ。商品を販売するまでには原材料の加工から運搬販売まで多くの人が関わってくるけど、特に物流業や小売業は人手不足に悩まされていて、人材確保や労働意欲向上のために賃金を上げていることが価格に反映されているんだ。このような値上げのことを「コストプッシュ型」といって、財布の紐を固くする家計もあると思うけど、働く人にとってはお給料が上がることにもなるので、経済の活性化にも繋がっていくと思うよ。

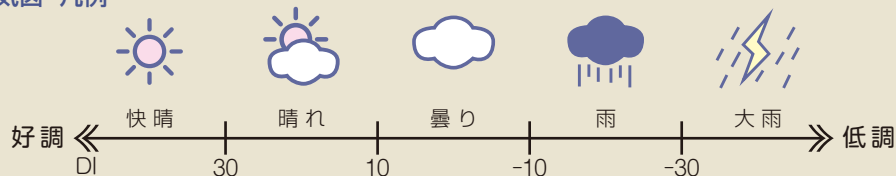
調査概要

1. 調査対象 愛知県内の当金庫のお取引先
2. 調査方法 調査票による面接聴取
3. 調査実績 回答数 434社
4. 調査期間 2019年3月1日~2019年3月7日

DI (Diffusion Index) とは

DI とは、企業の業況感や売上額の増減などの判断を指数化したもので、「良い(増加) - 悪い(減少)」の企業割合で表されます。特に業況判断DIは、その推移を観測することで景気の転換点を捉えることができることもあり、注目されています。

●業種別天気図 凡例



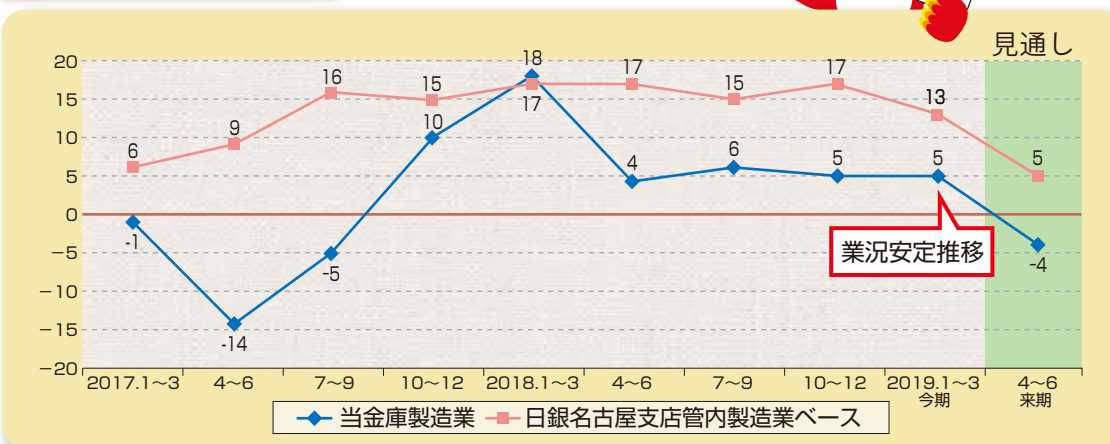
2017年 10~12月	2018年 1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	2019年 1~3月	4~6月(予想)

今回のポイント

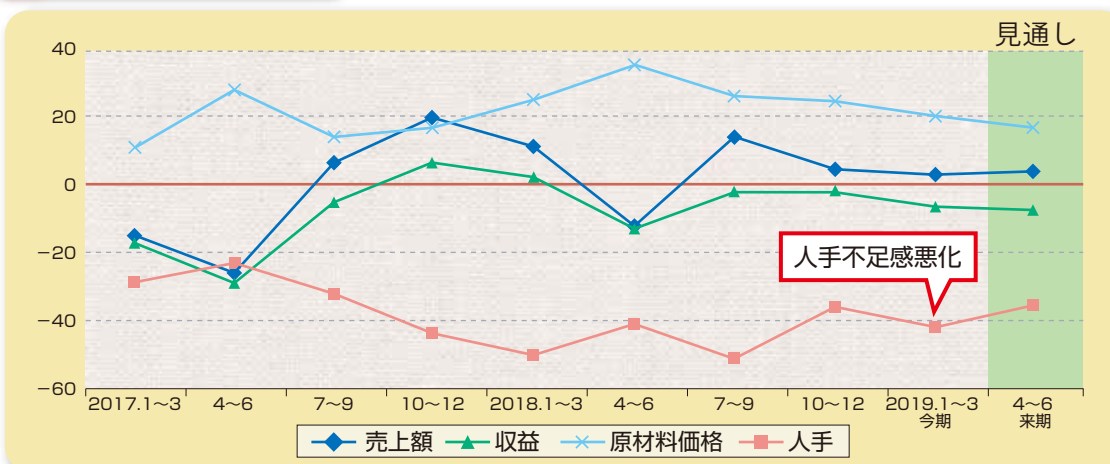
- ☑ 今期の業況判断DIは、前期と同じく5となりました。消費増税前の駆け込み需要を見越した自動車の増産体制や、活発な設備投資需要による電気機械等の受注増により、景況感は安定推移が続いています。
- ☑ 今期の人手DIは▲4となりました。人手不足や人員確保のための人件費増加を経営上の問題点にあげる企業割合が増加しています。
- ☑ 来期の予想業況判断DIは▲4となりました。人手不足感は続き、人件費増加や人材確保等費用の増加により収益改善進まず、景況感はマイナス圏まで落ち込む見通しです。



業況判断DI推移



主要判断DI推移



※人手DIは「人手が過剰-人手が不足」の企業割合を示します。

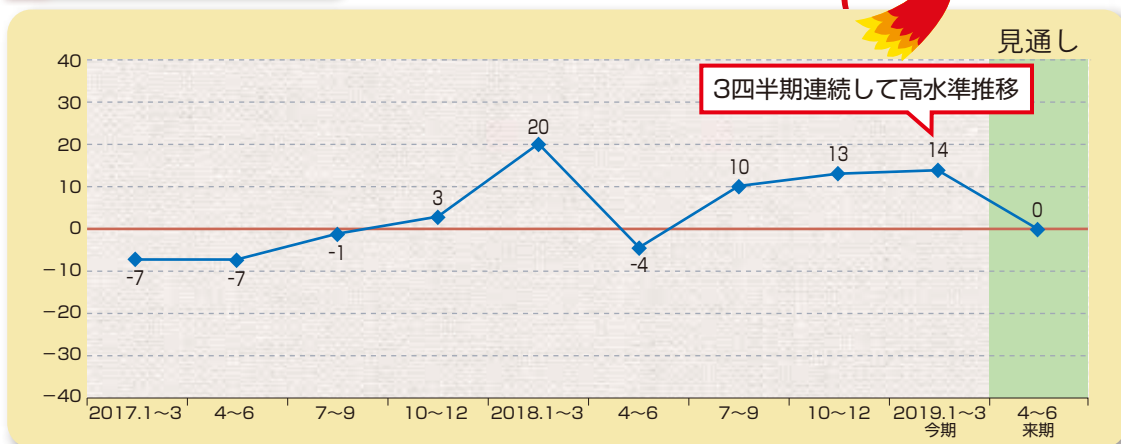
2017年 10～12月	2018年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	2019年 1～3月	4～6月(予想)

今回のポイント

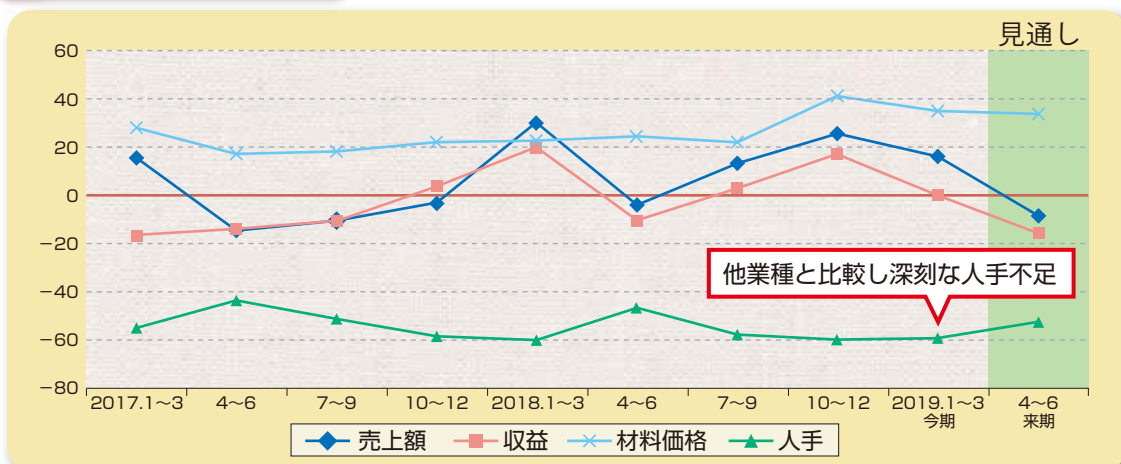
- ☑ 今期の業況判断DIは、前期より1ポイント増加し14となりました。消費増税前の駆け込み需要の影響もあり、住宅建設等の受注が好調であることなどから、景況感は前期と同程度の推移となりました。
- ☑ 人手DIは今期▲59、来期見通し▲52となりました。経営上の問題点として、「人手不足」に加え「下請の確保難」をあげる企業が増加傾向にあり、受注の増加により人手不足感はより顕著になってきています。
- ☑ 来期の予想業況判断DIは0となりました。駆け込み需要の一服や材料費の高止まり等もあり、売上・収益DIともにマイナス圏に落ち込む見通しです。



業況判断DI推移



主要判断DI推移



※人手DIは「人手が過剰-人手が不足」の企業割合を示します。

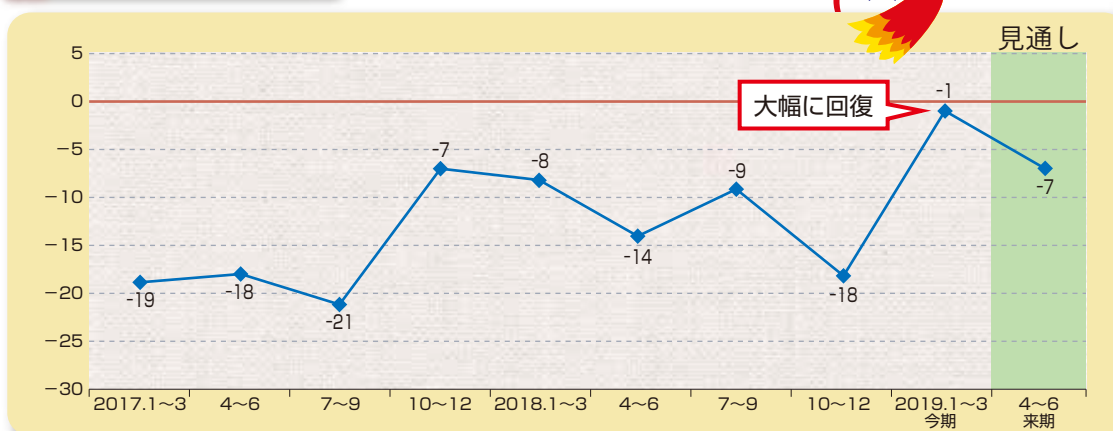
2017年 10~12月	2018年 1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	2019年 1~3月	4~6月(予想)

今回のポイント

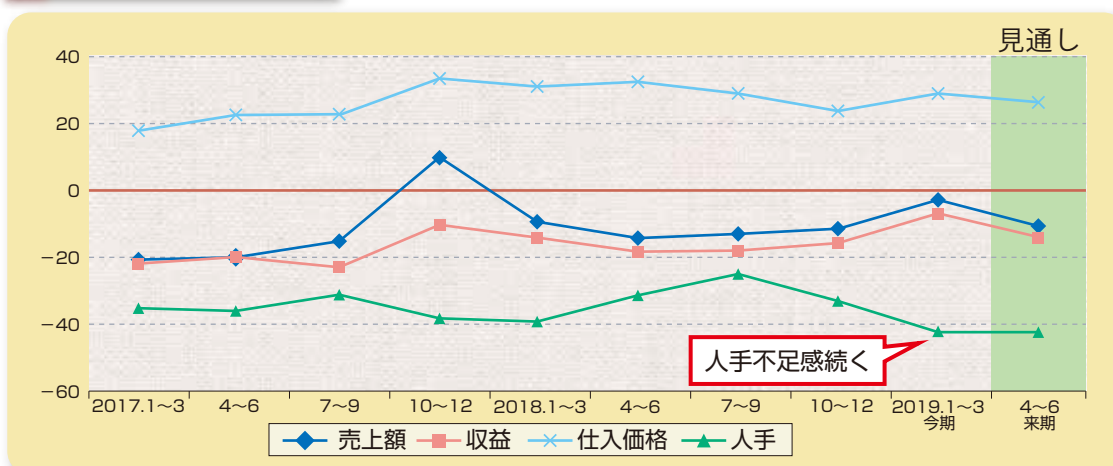
- ☑ 今期の業況判断DIは▲1となりました。良好な雇用環境を背景に、小売業の売上・収益DIがともに改善し、景況感は前期より17ポイントの大幅改善となりました。
- ☑ 今期の人手DIは▲41となりました。人材紹介サービスの利用を行うものの、常態的に人手不足に悩まされているようです。また、人手不足を契機にキャッシュレス決済導入等の機械化を検討する動きもあります。
- ☑ 来期の予想業況判断DIは▲7となりました。仕入価格の高止まりや人手不足感が続き、業況の悪化が見込まれます。



業況判断DI推移



主要判断DI推移



※人手DIは「人手が過剰-人手が不足」の企業割合を示します。

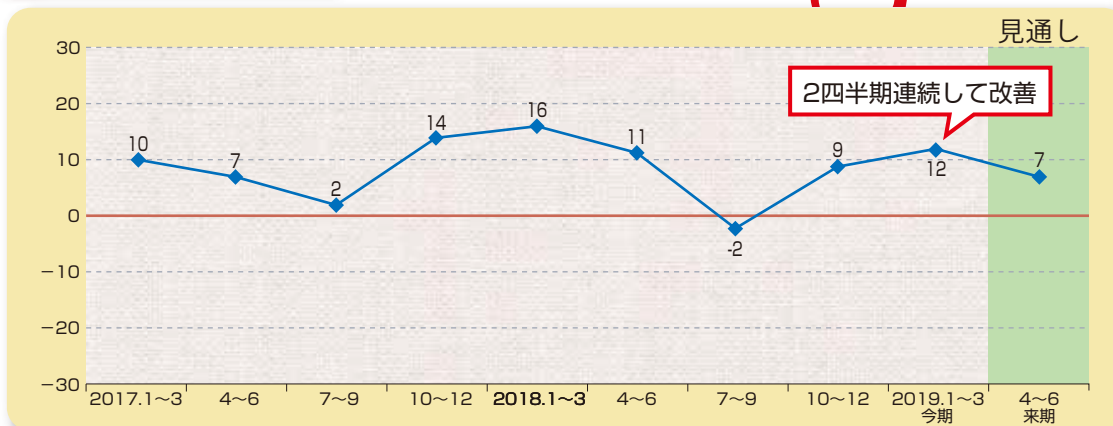
2017年 10~12月	2018年 1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	2019年 1~3月	4~6月(予想)

今回のポイント

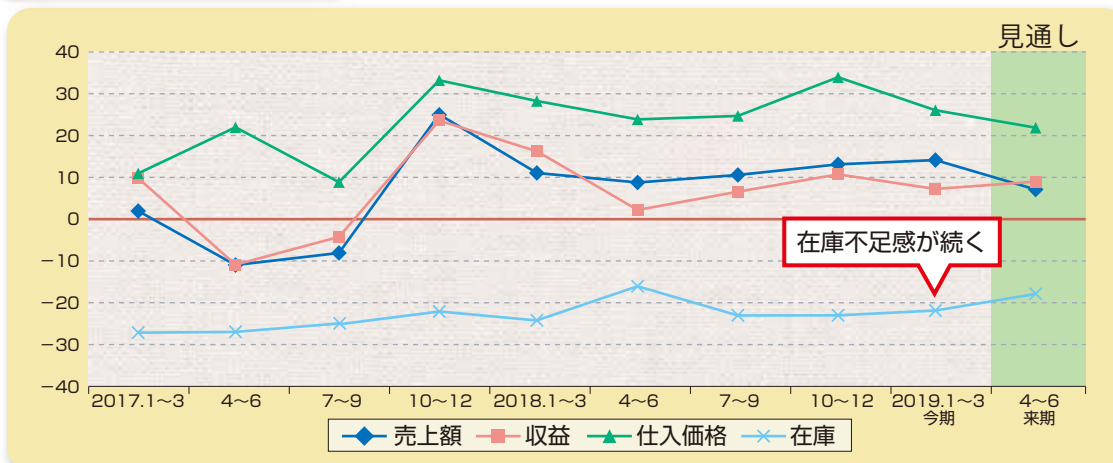
- ☑ 今期の業況判断DIは、前期より3ポイント増加し12となりました。堅調な住宅需要に加え、就職や進学等に伴う賃貸需要も重なり、景況感は改善が続きました。
- ☑ 今期の在庫DIは▲22となりました。同業他社との競合により依然として良物件の確保に苦慮しており、ほぼ半数の企業が「商品物件の不足」を経営上の問題点に挙げています。
- ☑ 来期の予想業況判断DIは7となりました。仕入価格の落ち着きによる収益改善が見込まれ、業況は安定推移する見通しです。



業況判断DI推移



主要判断DI推移



※在庫DIは「在庫が過剰-在庫が不足」の企業割合を示します。

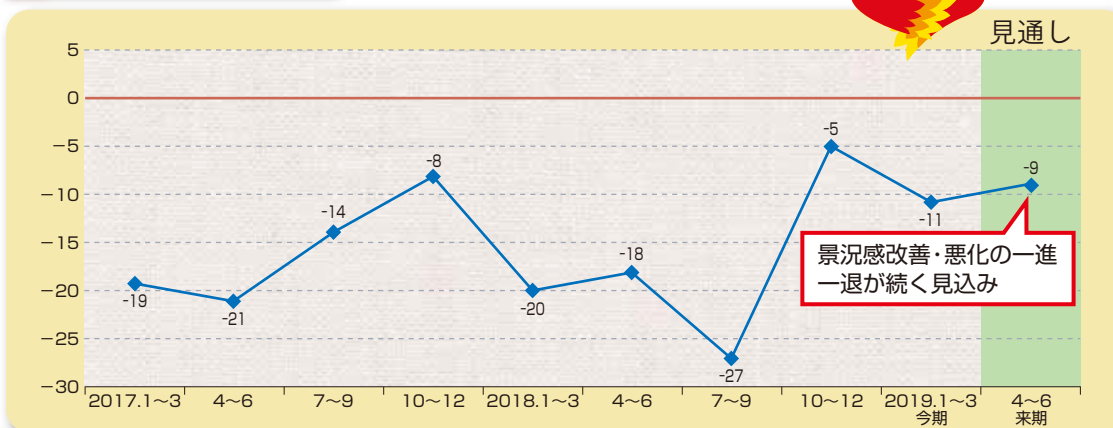


今回のポイント

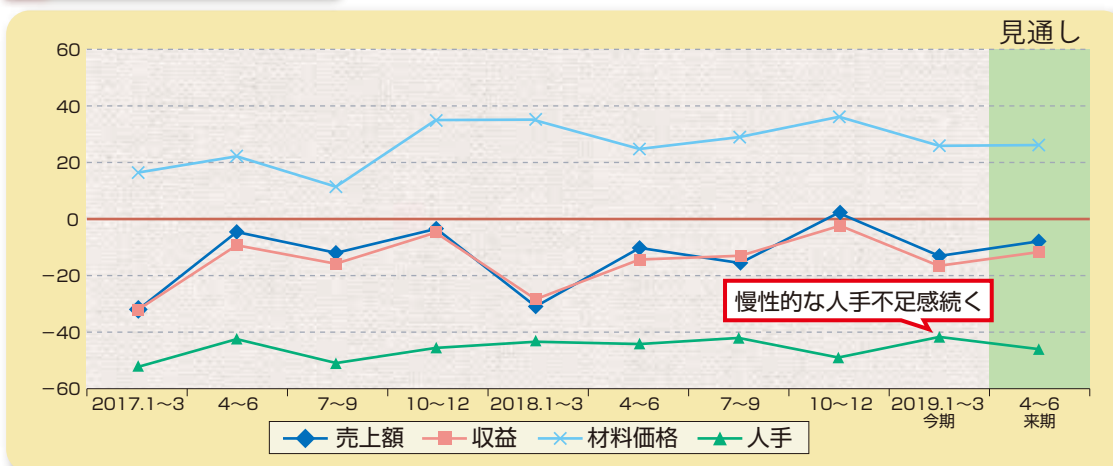
- ☑ 今期の業況判断DIは、前期より6ポイント悪化し▲11となりました。毎年1~3月調査では、年末需要の反動により業況は悪化傾向にあり、今期も売上・収益DIともに10ポイント以上の低下となりました。
- ☑ 人手DIは今期▲42、来期▲46となりました。慢性的な人手不足感は続き、経営上の問題点として「人手不足」を上げる企業は、過去3年間の調査で最も多い51%となりました。
- ☑ 来期の予想業況判断DIは▲9となり、今期と同程度の推移が見込まれます。キャッシュレス決済の早期導入によるポイント還元対応での顧客誘致、IT化によるコスト削減の検討など、同業他社との差別化を目指している企業もあります。



業況判断DI推移



主要判断DI推移



※人手DIは「人手が過剰-人手が不足」の企業割合を示します。